研究報告

鳥取県におけるマメシンクイガの発生消長とジアミド系殺虫剤の防除効果

鳥取県農業試験場　福田（ふくだ）　侑記（ゆうき）・奥谷（おくたに）　恭代（やすよ）

はじめに

マメシンクイガ *Leguminivora glycinivorella* は，幼虫がダイズ莢内に食入し，内部の子実を食害する害虫である（図-1 a, b）。本種は九州以北の日本全土に分布するが，比較的寒冷な地域での発生が多い北方系の害虫であり，北海道から北陸にかけてのダイズ主要害虫とされている。一方，西日本における本種の発生程度は極めて少なく，山間地を中心に試験研究記録がいくつかあるものの，防除対象外の害虫として扱われている（内藤・正木，1962；小林，1979）。しかし，近年，鳥取県内各地で本種による被害が急増し，大きな問題となっている。前述の通り，本種は西日本において防除対象外の害虫であったため，本県における基礎的な生態，薬剤の効果，散布適期等の知見は皆無である。

そこで，鳥取県におけるマメシンクイガの分布状況ならびに発生消長を調査するとともに，ジアミド系殺虫剤を利用した本種の防除対策を検討したので報告する。

Ⅰ　鳥取県におけるマメシンクイガの発生状況

1　マメシンクイガの分布状況

鳥取県内のダイズ圃場におけるマメシンクイガの分布状況を把握するため，県内各地のダイズ圃場から，子実を採取してマメシンクイガによる被害粒の有無を調査した。

調査の結果，平坦から山間地域（図-2）までのいずれの地域においてもマメシンクイガによる被害粒が確認され，本種は県内全域に分布することがわかった。また，本種は連作により被害が増加することが知られており（内藤・正木，1962；小林，1979），本県においても同様に，連作圃場で被害粒が多い傾向が認められた。なお，マメシンクイガによる被害粒のほかに，シロイチモジマダラメイガの幼虫およびその被害粒も確認されたことから，県内にはマメシンクイガとシロイチモジマダラメイガの2種が混在して分布することも明らかとなった。2種による被害粒の優占程度は調査圃場によって異なったが，今回の結果からは優占種を決定する要因を解明できなかった。

図-1 a　マメシンクイガ成虫（鳥取大学 中　秀司氏原図）

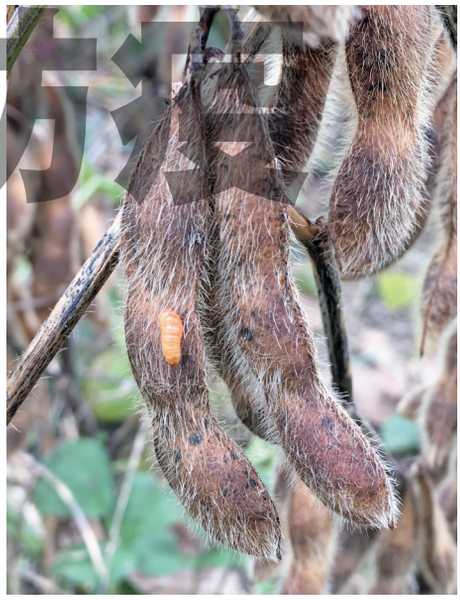

図-1 b　ダイズ莢から脱出するマメシンクイガ幼虫

2　発生消長調査

鳥取県におけるマメシンクイガの発生消長を明らかにするため，雌の合成性フェロモンを誘引源としたトラップへの誘殺数を調査した。調査は2014～16年にマメシンクイガによる被害粒が確認された県内各地のダイズ圃

Seasonal Prevalence of Soybean Pod Borer, *Leguminivora glycinivorella* in Tottori Prefecture and Effect of Diamide Insecticides.
By Yuki Fukuda and Yasuyo Okutani-Akamatsu

（キーワード：マメシンクイガ，発生消長，防除対策，ダイズ）

植物防疫